

コバルトブルーの輝き復元

経営

軸線

今回の工事は、クアラルンプールにあるモスクなどを所管するJAWI（連邦直轄領イスラム事務局）からの発注によるもので、首都中心部に位置する1998年に竣工したウィラヤモスク（延べ床面積約6000平方メートル）のドーム部分140平方メートルをメンテナンスするもの。

FRP製のドームに張られたモザイクタイルの退色もかなり進み、はく離したタイルが落ちて、礼拝に訪れる人への被害も懸念されていた。工事は洗浄、コーティング剤の塗布も含め、約1カ月で終了した。コーティング膜は30ナで細かい傷やポーラス多孔隙に入り込み保護することができ、これによりコバルトブルーに輝くモザイクタイルの鮮やかな色もよみがえり、はく離も防止できた。施工部分については、アイハラサービスとともに、10年間保証していく。

その結果、コーティング後は耐久性向上、劣化したモザイクの色つやなども復元できることを立証し、今回の受注に至った。また、日本国内で唯一のアスベスト無害化処理工法(CAS工法)を保有する企業としての実績が評価され、16年には国際協力開発機構(JICA)が実施するODA事業、中小企業海外展開支援事業

モスクドーム部をメンテナンス

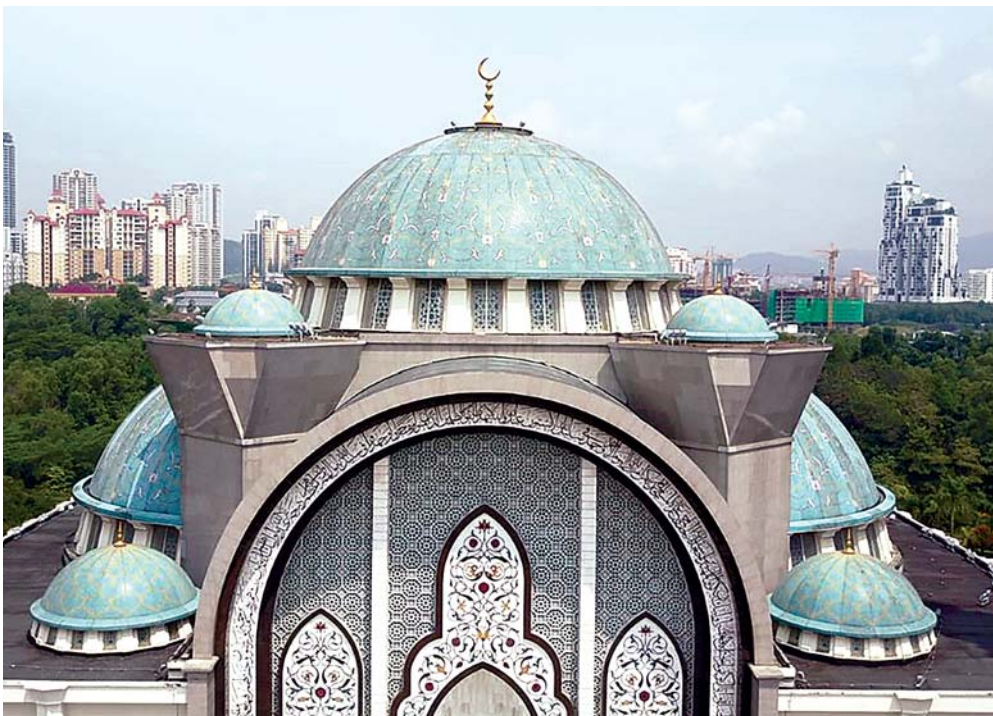
「アスベストによる健康被害防止のための無害化剤・無害化工法の導入に向けた案件化調査」をマレーシアで展開してきた。

17年には国立パハン大学と、エコ・24製品の応用分野を開発することで、合意。さらに、ODA事業の一環として、マレーシアのイスラム施設内におけるアスベスト調査を実施するなど、同国で着実に地歩を固めてきた。

現在、マレーシア全土で6311カ所、世界中で約360万カ所のモスクがある。

波間社長は、「当面、マレーシアで、ビジネスのポテンシャルを高め、地歩を固めていく。その上で、中近東、アジア諸国のイスラム教国で、お役に立てることがあれば、製品、技術を提供していきたい」と展望を語る。

日本の設計会社や建設企業が、イスラム圏でモスクを建設する動きも活発化していることを視野に、積極的に業務提携していく姿勢を示す。



施工前、モザイクタイルの退色、はく離が進んでいた



施工後、竣工時の輝きを取り戻したウィラヤモスク



エコ・24

ECO24

